

香港株式市場フラッシュ

半導体メモリー需給逼迫と半導体製造装置メーカーへの追い風

リサーチ部 笹木和弘

Tel: 03-3666-6980

E-mail: kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

フィリップ証券株式会社

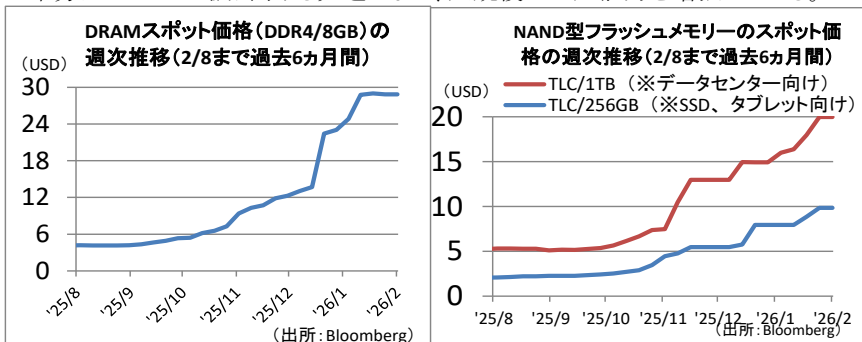
2026年2月11日号(2月10日作成)

“中国半導体メモリー2社の躍進”

昨年10月以降、半導体メモリーのNAND型フラッシュとDRAMのスポット価格が急騰している。需要面の要因は、半導体メモリー製造で世界2強を占める韓国のサムスン電子とSKハイニクスが米AI(人工知能)大手OpenAIが主導するプロジェクト「スターゲート」を支援するため、大型契約を発表したことが大きい。供給面の要因は、米マイクロテクノロジーを加えた半導体メモリー世界3強が生産ラインを広帯域メモリー(HBM)に大幅にシフトしたためNAND型フラッシュやDRAMの生産量が減少していたことが挙げられる。

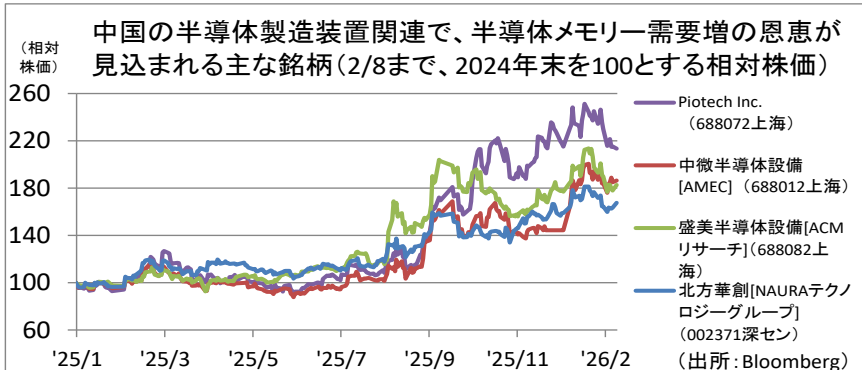
それに加え、新しいメモリー工場の立ち上げには通常2~3年かかることから本格的な供給増は早くても2027~2028年以降になる見通しであり、2026年内いっばいは半導体メモリーの需給ひっ迫が続くとみられている。

そのような中、長期記憶を担うNANDでは**長江存儲科技(YMTC)**が、短期記憶を担うDRAMでは**長鑫存儲技術(CXMT)**が着実にシェアを伸ばしている。中国以外の地域でシェア獲得が進むかは見通せないものの、米中対立を背景に自国半導体を使うよう促す中国政府の優遇策で技術力を急速に高めている。この2社は、中国政府が半導体産業振興のために立ち上げた国策ファンド「国家集成电路産業投資基金(大基金)」の主な投資先として、半導体受託生産の中芯国際集成电路製造(SMIC)とともに名前を連ねている。資金面での支援を受けて、CXMTは上海工場を拡張し、YMTCは湖北省武漢市に第3工場を建設中で、その生産能力の半分はDRAMに振り向ける見通しなど、大規模に生産能力を増強している。



“追い風を受ける半導体製造装置メーカー”

CXMTとYMTCの工場拡張やDRAM、NAND、HBMへの生産シフトに伴って受注拡大の機会を得ると考えられるのは、エッチング、蒸着、洗浄、パッケージングなどを手がける半導体製造装置メーカーである。①**北方華創[NAURAテクノロジーグループ](002371 深セン)**は、エッチング装置、薄膜蒸着、洗浄装置を手がける。中国のエッチング市場でシェア30%超のリーダーとして、HBMやDRAM生産ライン向け装置供給の増加が追い風となっている。②**中微半導体設備[AMEC](688012 上海)**は、メモリー生産の高度化に伴うエッチング、蒸着需要の高まりの恩恵を受けている。③**ウェハー洗浄装置を取り扱う盛美半導体設備[ACMリサーチ](688082 上海)**は、HBM向けTSV(貫通電極)深穴洗浄技術を展開中であり、高度なHBM対応洗浄システムを2026年内リリースの計画としている。④**薄膜蒸着装置を取り扱うPiotech Inc.(688072 上海)**は、CXMTやYMTCの工場の地元でもあるメリットを生かし、DRAMやNANDの高度プロセスにおける蒸着装置需要の増大が追い風となっている。



ハンセン指数またはハンセンテック指数構成銘柄(全100銘柄)における終値の昨年末来騰落率

前回基準日: 20260127 基準日: 20260210

順位	2025年末来騰落率・上位10銘柄 (%)	前回順位	
1	Pop Mart International Group Ltd	43.7	18
2	華虹半導体[ファホン・セミコンダクター]	36.3	1
3	新鴻基地産発展[サンファンカイ・プロパティーズ]	36.2	4
4	中国人寿保険[チャイナ・ライフ・インシュアランス]	29.7	5
5	藥明生物技術[ウーシー・バイオリジクス・ケイマン]	27.3	9
6	創科実業[テクトロニック・インダストリーズ]	27.1	14
7	信義瑠璃控股[信義ガラス]	26.8	26
8	ビリビリ	24.6	2
9	石薬集団 (CPSC Pharmaceutical Group)	22.4	13
10	無錫藥明康德新薬開発[ウーシー・アプテック]	22.4	19

順位	2025年末来騰落率・下位10銘柄 (%)	前回順位	
100	携程旅行網[トリップドットコムグループ]	-19.0	98
99	金蝶国際軟件集团[キングディー・ソフトウェア]	-15.8	56
98	Meituan (美团)	-14.0	93
97	小鵬汽車	-13.0	95
96	網易[ネットイース]	-10.1	86
95	舜宇光学科技(集团)[サニーオプティカル・テクノロジー]	-10.0	87
94	小米集团[シャオミ]	-9.5	97
93	中国電信[チャイナ・テレコム]	-9.5	92
92	Zhejiang Leapmotor Technologies Ltd	-8.5	100
91	騰訊控股[テンセント・ホールディングス]	-8.0	68

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【2026年2月: 中国主要経済指標】

- 1月31日(土)
 - ・1月製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回50.1、結果49.3
 - ・1月非製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回50.2、結果49.4
- 2月2日(月)
 - ・1月(RatingDog) 製造業PMI: 前回50.1、結果50.3
- 2月4日(水)
 - ・1月(RatingDog) サービス部門PMI: 前回52.0、結果52.3
- 2月7日(土)
 - ・12月外貨準備高: 前回3.357兆USD、結果3.399兆USD
- 2月11日(水)
 - ・1月消費者物価指数(CPI) <前年同月比>: 前回+0.8%
 - ・1月卸売物価指数(PPI) <前年同月比>: 前回▲1.9%
- 2月10日(火)~14日(土)
 - ・1月資金調達総額: 前回35.60兆元
 - ・1月新規人民元建て融資: 前回16.27兆元
 - ・1月マネーサプライM2 <前年同月比> 前回+8.5%
- 2月13日(金)
 - ・11月新築住宅価格 <前月比>: 前回▲0.37%
- 2月24日(火)
 - ・1年ローン・プライムレート: 前回3.00%
 - ・5年ローン・プライムレート: 前回3.50%
- 2月11日(水)~14日(土)
 - ・1月対外直接投資 <前年同月比>: 前回▲9.5%

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、当レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。